

書名：クリスマスの思い出

著者：トルーマン・カポーティ

訳者：村上春樹

出版社：文藝春秋

出版年月：1990年11月

総ページ数：79ページ

ISBN：4163122109



推薦者

倉橋誠一

鳴門教育大学大学院講師

特別支援教育専攻

著者はオードリー・ヘプバーン主演で映画化された「ティファニーで朝食を」の原作者として有名です。この本は日本では著者の「イノセント・ストーリー」シリーズ（村上春樹：訳／山本容子：銅版画）として出版された最終作品です。私は村上春樹という名前に惹かれて購入したのですが、色鮮やかな版画と遠い過去の純粋な気持ちを思い出させてくれるこの本に魅せられました。

主人公の7歳の僕と60歳を超えた遠縁のいとこ（女性）が毎年クリスマスの季節に行う三十個のフルーツケーキ作り。二人で一年かけて貯金をし、材料を集め、ケーキを焼きます。でもそのケーキはいったい誰のために焼かれたのでしょうか。

クリスマスイブの夜、彼女は僕に「お前の手も以前はもっとずっと小さかったような気がするねえ。お前が大きくなっていくのは、あまり嬉しくないね。お前が大きくなっても、私たちはずっと友達でいられるだろうかねえ」PP60-63と問いかけます。僕は「ずっと友だちさ」p63と答えますが、これが二人がともに過ごした最後のクリスマスとなります。

大人へと成長していく僕と老いていく彼女。前者の立場であった私たちはいつしか後者へと変わっていき、同時に幼い頃の純粋な気持ちを忘れていきます。しかし、その気持ちを忘れていない彼女は生きることによって時々大変さを感じているのかもしれない。

学生時代に読みたかった一冊、カヌーイスト野田知佑著「旅へ 新放浪記1」もお勧めです。野田さんは現在徳島県美波町に住んでいます。

